



## 北本市で初開催！ 第62回全国広報広聴研究大会

自治体広報のトップランナーが登壇する、  
大会史上初の会場巻き込み型パネルディスカッションを開催します



写真データ提供可

### 全国広報広聴研究大会とは

詳細は日本広報協会ホームページ



広報広聴の今日的課題をテーマに、講演、パネルディスカッション、事例研究などを通じて広報広聴の在り方を考える、年に一度の全国規模の大会です。1964(昭和39)年から、毎年1回、開催地を変えて開催しています。第61回は秋田県横手市で開催されました。全国広報コンクールの表彰式も開催されるため、コンクールの受賞者をはじめ、全国各地の広報担当者(約200人)が参加し、意見交換、交流の場にもなっています。

埼玉県での開催は2009年のさいたま市以来、16年ぶりであり、北本市での開催は初です。

### 大会概要

大会テーマ「仲間づくりは、ここから。」

～広報について本気(マジ)で語り合う1日 in 埼玉・北本」

日時

6月6日(金)

場所

北本市文化センターホール

- ・10:30～11:30 開会式・令和7年全国広報コンクール表彰式
- ・11:45～12:15 特選等表彰者の事例発表
- ・13:30～16:00 激論型パネルディスカッション
- ・16:00～16:05 閉会式

対象

自治体広報担当者等

主催

公益社団法人日本広報協会、埼玉県、北本市

# 激論型パネルディスカッション

登壇者が A 派・B 派に分かれて、「やっぱり広報紙 VS これからは Web 中心」「広報紙は外注 VS 広報紙は内製」など、全国の広報担当者が共感しやすいテーマに基づき、激論トークを行います。登壇者のみならず、会場出席者もどちらかに投票し、適宜発言する機会を設けて、大会参加者全員で考え、語り合います。見ている人が、「どちらも一理ある」と共感でき、広報の現場に戻ったときの参考になるようなパネルディスカッションを行います。



**【パネリスト】** ※所属は令和7年3月28日現在の情報です。  
最新情報は日本広報協会ホームページをご覧ください。



茨城県小美玉市  
魅力発信課  
代々城 衣里

広報・シティプロモーション担当6年目。シティプロモーション活動としての広報紙特集制作、レイアウトリニューアル、庁内ルールの見直しなどの包括的な広報紙改革や公式サイトリニューアルに取り組む。地元クリエイターと共創した漫画特集「実は身近なSDGs」は地域内外から大きな反響を得て、全国広報コンクール広報紙市部で令和4年入選。翌年制作した「エシカル消費」特集は令和5年入選2席を受賞。



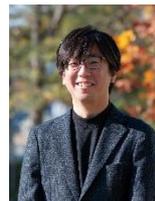
埼玉県草加市  
広報課  
安高 昌輝

行政情報が伝わっていないことに危機感を覚え、広報課1年目で広報紙フルリニューアルを決意。思いを形にした「特集リノベーションまちづくり」が埼玉県広報コンクール(広報紙・市部)第1席。情熱や実績が認められ、異動してわずか7カ月で、デザイン・カラー・発行回数・紙質を変更する広報紙フルリニューアルを達成。今年の広報コンクールでは、広報紙・市部門と映像部門のダブルで埼玉県代表に選出。2024年地方公務員アワード受賞。



埼玉県北本市  
市長公室  
秋葉 恵実

平成30年から広報担当。デザイン・編集経験ゼロからスタートし、令和3年度に広報紙の企画・取材・編集・デザイン全てを職員が行う内製化を開始し、編集委託予算600万円を削減。令和4年埼玉県広報コンクールで特選(一枚写真)、第一席(広報紙・市部)に選ばれ、令和5年全国広報コンクールで内閣総理大臣賞を受賞、当時の岸田総理大臣に謁見。令和6年全国広報コンクール入選。株式会社PR TIMES公認プレスリソースエバンジェリスト。



LOOCUS BRIDGE  
最高執行責任者兼共同代表  
林 博司

埼玉県北本市職員として広報5年、シティプロモーション・ふるさと納税を3年担当。「財政状況伝えるマン」で全国広報コンクール広報紙・企画部門入選。シティプロモーション「&green」で北本市を17年ぶりの転入超過にし、全国広報コンクール内閣総理大臣賞受賞。3年連続ふるさと納税埼玉県寄付額1位。市町村アカデミー「広報の効果的実践」講師を担当。



埼玉県ときがわ町  
総務課兼選挙管理委員会  
事務局  
保坂 良輔

2017~2023年に広報を主担当。当時は、交通安全や自衛隊も主担当、選挙や自治会やコミュニティを副担当、例規審査委員や総振策定委員や青少年相談員や消防団も兼ねる「仕事のつぼ」。ワンオペ兼任・DTPにめげず誰にも頼らず磨き上げた広報は、独自の雰囲気を出し、尖りつつも、町民への影響も大きい。1年目に全面刷新し、令和4・5・6年全国広報コンクール広報紙・町村部入選、BSよしもと賞を置き土産に無念の異動。



兵庫県川西市  
市制70周年記念  
事業事務局  
池田 次郎

2009年、川西市役所入庁と同時に広報課へ配属。7年間の在任中に県広報コンクールで6年連続広報紙部門特選、写真部門では3年連続特選を受賞。全国では、広報紙、組写真、企画、映像部門で、読売新聞社賞などを受賞。異動後は、NOMA や日本広報協会、地方自治体などのセミナーに登壇するほか、撮影とデザインのYouTubeチャンネル「Photo & Design」で映像制作を続ける。2024年地方公務員アワード受賞。



奈良県生駒市  
広報広聴課  
村田 充弘

広報・シティプロモーション担当12年目。広報紙や動画の制作、PRサイト・SNSの運営、住民と協働した情報発信など多岐にわたる広報業務に携わる。担当する市民PRチーム「いこまち宣伝部」がグッドデザイン賞、PRサイト「グッドサイクルいこま」が自治体広報DXアワードを受賞。シティプロモーションの成果の可視化や効果測定にも力を入れる。2007年新卒入庁。教育総務課を経て現在は広報広聴課主幹兼プロモーション係長を務める。



奈良県王寺町  
議会事務局  
村田 大地

2015~2022年広報担当。月2回発行の広報紙リニューアル・内製化、町公式サイト、各種SNS立ち上げ、イベント企画等、町の広報基盤を整備し全国広報コンクール入選。一連の「広報」の取組は住民アンケート実施満足度1位・約90%が広報紙を愛読する結果に。2023年より議会事務局に転出、リニューアルした「議会だより」は2年連続で全国議会広報コンクール入選。広報改革の事例はマニフェスト大賞で優秀賞を受賞した。

## 【モデレーター】



日本広報協会事業部長  
兼調査・企画部長  
藤本 勝也

1990(平成2)年に日本広報協会に入職。政府広報誌「時の動き」「Cabinet」の編集デスクを経て、現在は広報関係の調査・研究、広報効果測定、コンサルティングなどを担当。また、各種広報セミナー、全国広報広聴研究大会、全国広報コンクールなど、自治体広報担当者向けの研修・表彰事業の企画・運営も担当している。

## 参加方法

専用申込書(日本広報協会HPに掲載)に必要な事項を記入し、公益社団法人日本広報協会へファクシミリで提出。日本広報協会会員団体であれば、1団体1人まで無料で参加できます(2人目以降は1人あたり参加費7,370円。会員外は1人12,100円)。また、自治体広報に関心のある学生は、「北本市枠」として無料で参加・見学可能です!(定員があります)詳細は北本市へお問い合わせください。